

---

=== 日程第3 一般質問 ===

○議長（宮嶋 清伸） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は10番、宮嶋清伸、7番、村松積君、3番、小池昌人君、5番、金田憲治君、4番、串原寛治君、9番、宮嶋怡正君、6番、福嶋利治君、以上7名から通告されております。

なお、一般質問の順序は、先に通告した順に行いますが、1番目は私ですので、議長席を宮嶋副議長と交代します。

（議長交代）

○副議長（宮嶋 怡正） 議長を交代いたしました。

---

◇ 宮 嶋 清 伸 ◇

○副議長（宮嶋 怡正） 宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

宮嶋清伸君。

○10番（宮嶋 清伸） 10番、宮嶋清伸です。

3月11日に発生した東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福を衷心よりお寄り申し上げるとともに、東日本大震災長野県北部地震で被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、昨年に引き続き、下條村の税込、住宅税、住宅料、保育料、水道料、介護保険料等の村の徴収率が22年度も100%の完納を達成したとお聞きしております。このことは、関係職員のご労苦に敬意を示し、感謝申し上げます。

この100%完納を長年続けていることは、ひとえに職員の強い責任感と村を支える住民一人一人の意思が、現在の安定した財政運営を築き上げていると確信して誇りに思っております。

通告外になりますが、1,000年に一度という未曾有の震災により、世界的規模の収束について、村長のお考えをお聞きしたいと思っております。

そして今回私は、この震災により影響のあった村内企業に対する施策について村長に提案をしてお考えをお聞きします。

今回の東日本震災は、直接地震と津波による被害と目に見えない原発より放出される放

射能物質によって、福島第1原子力発電所から半径20km周辺地域だけでなく、全国、世界にまで産業構造に影響がありました。そこで今回影響のあった村内企業に対し、助成金や融資の、また利子補給などの資金の範囲を拡大する施策が早急に必要だと考えますが、村長のお考えをお聞きします。

また、今回の長野県北部地震により、同じ長野県ということで風評被害で減少気味の観光客に対して、自然豊かな下條村で森林浴のできる遊歩道の整備や遊休農地を利用した花畑の開拓をし、岐阜蝶や蛍の生息を増やし、下條に来てもらう施策がリニアを見据え、必要だと思いますが、村長のお考えをお聞きします。

以上で私の質問を終わります。

○副議長（宮嶋 怡正） 伊藤村長、答弁願います。

○村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

私も30数年議会に出させておっていただきますけれども、議長が替わって質問されたというのは今回で2回目でございます。それだけ考えようによっては、大きな問題も今提起されたと思います。

特に議員最初に税徴収ということについてお褒めいただいたわけでございます。

今、当然徴税というのは100%公正公明にやらなければいけないということでございますけれども、今の住民のこの義務を遂行するという意識がだんだんと欠如してまいりました。そこへもって行ってこの不況もあるということでございまして、全国そうでございますけれども、徴税率は非常な勢いで落ちております。特に今年は観光地、今「風評被害」というような言葉もありましたけれども、観光地の入り込み客というのは全般的に落ちております。

長野県でも上がっておるところ1つは安曇野でございまして、何かテレビだか映画の舞台になったということでございまして、あの安曇野のふるさと原風景、これを求めて今多くの方が来ておるそうでございます。もう1つは善光寺でございまして、もう善光寺も結構だなと思っておったら、去年がご開帳の次の年ということでございまして、ずっと落ち込んでおりました。それがだいたい元に戻ったということで、去年が悪すぎたということでございますけれども、総じて風評被害プラス今の景気の悪いということでございまして、昼神温泉等においても相当な苦戦をしておるところでございますけれども、だいぶ立ち直

ってきたようでございまして、大いに期待しておるところでございます。

その次の質問でございますけれども、たまたまそして下條村は100%毎年ずっとこれ続けておるわけでございまして、長野県でも大変な評判の村でございます。

県全体も非常に徴収率が落ちておるということでございまして、今回県主導で「税共同徴収機構」というのを作りまして、私もその方の責任者になっておるわけでございますけれども、私は「こんなことは県でやった、国でやった、広域でやったとって徴収率なんか上がるもんじゃなくて、それぞれの市町村が本当に真剣に納税者と向き合って、そして本当に真剣に勝負しないと、この税の徴収率というのは上がりませんよ」ということで猛反対しておりましたけれども、どうも全体としてそういう状況であるから、私の条件としては「ここにかかる費用の基礎的なものに対しては、要するに平均割りに対してはものすごい下げて、それからそういう機構に不良債権を持ち込む人に対してはそれべくの独立会計でやっていただきたい」と。「それ以外なら下條村もう入りませんよ」ということでやりました、平均割は5万円、あとは例えば200万円の物件をやって100万円しか取れただけけれど、そのうちの2割その機構に入れるとかいうことをして、その機構は運営していくことでございますけれども、そういうことをしておるところでございますけれども、これからもまたひとつ一緒に取り組んでいくわけでございます。

それで今回の震災に対してのお話もありました。これはお話のように1,000年に一度ということでございまして、これは大変なことでございます。

それで昔から「災い転じて福となす」ということでございますけれども、大変だえらかった大変だえらかったということになしに、こうした悲しい事象を徹底的に前向きに分析して、そしてこの分析した反省に基づいて、今度はそのことについて福としなければいけないというふうに私は考えております。

災害災害といっても、1つは、私はこれは神が与えてくれた試練だと思っておりますけれども、1つの1,000年に一度の大震災というのは、これは自然災害でございます。ところがその次に原子力発電、福島第一原発があったわけでございますけれども、それがあのような状態になった時に、1つは14.5mの津波を予想できたかできなかったかということで、後で言ってもう少し高いのを作っておけば良かったんじゃないかということを考えればそうでございますけれども、あれは半分は自然災害、あとは人的災害であろう

と思います。

この人的災害の状況を見ておるにも、メルトダウン、メルトスルーをしておるということを政府関係者がわかっておっても、あのまやかしたような答弁ばかりでじわりじわりと小出しにしていくというあの無責任なやり方。そして東電の今までのあの管理状態を見ておると、官僚の最たるものでございまして、あれで世界の東電といえるのかなということを感じさせられます。

そしてこの状態に至っても、まだ政治の茶弁劇を平気でやっておるわけございまして、なんという政治家、そして官僚。そしてそれを選んだ我が国の国民、共同責任でございまして、これも1つ早く解決に向かわなければいけないと思っております。

それ以前として、人災の最たるものが我が国の財政状況でございまして。年間予算9兆2千900億円くらい、今年が9兆2千400億円くらいでございましてけれども、その予算の中の40数%くらいしか収入がないということございまして。これは家計と同じでございまして。私はいつも言っておるわけございまして。

これを自民党単独の時代、自民党・公明党の単独の時代、それからずっと今日までそれを続けておるわけございまして、どういう結果になるといいますと、1年間の予算の10倍、これ今借金できておるわけございまして、これはなぜこんなことになったかという、人災でございまして、政治家もその実態はわかっておって、何とか国民に負担を求めるとか、それから自分自身の身を削るとか、改革をするんだということではなくて、何とかなるわい、何とかなるわいというのが何とかならなかったわけございまして、このことが表面に出て国際社会の中で「日本大丈夫か、日本頑張れよ」という声になって、諸外国は日本のことを相当心配しておるわけございましてけれども、日本国民はさすが大したものでございまして、まだまだごらくとんぼのようなことを言っておるわけございまして。

そうした最悪の状態の中で天が下した試練というのが1,000年に一度という試練であつたらうと思っております。これで我々は本当にもう少し原点に戻って、そして生活風習まで今の状態でもいいのか悪いのか、負担はこれでいいのか悪いのか、そこらまできっちりやって、こんなばかげた借金を次の世代に先送りするなんていうこと考えられないことございましてし、なおかつ長寿化社会、これは聞こえはいいんですけども、高齢化社会にな

っていくわけでございます。高齢化社会になれば当然介護に金がかかる。そして医療に金がかかる。今既に毎年1兆3,000億円くらいずつ医療費は増えておるわけでございますけれども、そしてそれをこれから払っていくお子さんたちが生まれないということになると、ますます大変なことになるわけございまして、やっこのごろ政治家も表に出すようになりましてけれども、今度も災害。4兆153億円でございまして、あと15兆円や16兆円、18兆円、20兆円くらいいると思うんですけれども、その金を今までなら国債発行してぼんぼんやっておったんですけれども、その許容量を日本の国債が異常に出回っておるということでございまして、国際社会が国債の運営について非常に警告を鳴らしておるということで、やたらに国債を発行できないという状況になり、国債の評価もどんどん落ちておるところでございます。

こうしたときに本当にまた原点に戻る作用ということで、これは我々の時代できっちり方をつけて、もうこれ以上借金だけは増やさないとというような決意で臨まなければ私はいけないと思っております。

それから次にあったのが、風評被害で観光客にこられた森林浴のできる遊歩道の整備や花畑の開墾、岐阜蝶や蛍の生息を増やし、下條村に来てもらう施策ということでございまして、これは非常に前向きな提言でございます。

下條村は、コンパクトにまとまった村でございますけれども、悲しいかな、観光資源は非常に乏しいわけで、そして歴史も乏しい。お隣の阿智に比べてみると、非常に阿智というのはどれを見てもみんな歴史に結びつけてうまく活用しておるわけでございますけれども、なかなか下條村にないということでございます。

ここで提案ありましたように、森林浴というのは下條村にとってはこれは1つおもしろい課題であろうかということと、ちょうどこれタイムリーに井水保全を含めて今計画しておるわけございまして、間もなく第1期工事として始まるわけでございますけれども、親田の大井井水という大きい井水でございます。

この延長についていろいろ村でも考えておりましたけれども、一昨年が一番難関な場所を国費を使ってやりました。地元負担1割という夢のようなものを使いまして、始めてあの地域で、始めてというかやりました。今度はその井水に沿った取付け道路、これをとにかく徹底して今年はやろうということと、途中で自衛を含めた形で井水改良ができること

があるわけでございますけれども、それもやるようになっております。

そして取水口から村道を渡ってくるところ、これについては国庫負担の今申請をしたところでございます。なかなか今こういう時代でございます、金はなかなかないということ。

恩田井水、大変お世話になっておる恩田井水も6～7年かけてやって、私もたまたま土地改良連合会におって、うんと力を入れてやって、今年からいよいよトンネルの巻き立て、これは億という金でございますけれども、取りかかります。来年は果たしてどうかという栄村、あの災害復旧だけで53億円くらいかかるということでございますけれども、そんなものにも相当とられてしまうのかなということでございますけれども、私どもはできるところはやる。そしてまたできるだけやるということで、これに全面的にやるようになっております。

花畑は今老人クラブで一生懸命やっておっていただきます。

私どもは悲しいかな、国道延長が7kmくらいしかないということでございまして、その周辺というのはあまり空いた土地がないわけでございますけれども、老人クラブも一生懸命やっておっていただきます。

それからそばの花畑、中原でございます。これもきれいでございます。

今年は中学生が去年の議会の中で私たちも協力しなければいけないということで、あの文化ホール一円をコスモスで植えてくれるということでございまして、下條の村花であるコスモス、あの周辺には相当きれいになろうかと思えます。

それから岐阜蝶ということでございますけれども、岐阜蝶もいろいろ今までやりました。これからもさらにやるわけございまして、下條村に観光協会というのがございます。この中でもあまり言っちゃいかんのですけれども、私は「観光協会というのは観光ばっかしておるじゃないか。ちっとばか汗かけ」ということでやっておりますけれども、今度草を刈ったりして、岐阜蝶の生息しやすい。特に阿地原の加賀美、それから月下美人のあのほらに姫寒葵という岐阜蝶が好むこの野草があるわけでございますけれども、そんなものも植えて、「看板は絶対にとらないでください」という看板を今年は設置するわけございまして、あれマニアに言わせると一匹1万円くらいするのがざらにあるそうでございますので、そんなこともやっていくということと、蛍は阿地原にだいたい出るようになったわけ

でございますけれども、これも期待できると思います。

その他そばの城は何といても核でございますけれども、そばの城につきましても去年徹底してやりました。やっとなんかいいぞと思ったら災害がありまして大災害がありまして、入り込み客ががたん落ちましたけれども、だいぶ復活したそうでございます。これからはそうしたものに大いに力を入れていく所存でございます。

それから補助金に対してどう思うということでございますけれども、基本的には補助金というのはもう対症療法でございます、基本的なことじゃなくて基本的には日本の経済をいかに良くするかということと、流通機構というのをもう少し見直させなければいけないということでございまして、特に前に新潟の理研ピストンというのが徹底的に地震でやられました。その時に今の部品が足りないということでなしに、自動車産業というのは休業に追い込まれたわけでございます。だからということで工場を分散したわけでございます。そいじゃ九州へ持っていけとか東北に持っていけとかいろいろ分散したら、その分散したものの東北分がまずなくなっちゃって今苦労しておるわけでございますけれども、さりとて本当自動車の会社ならストック作っておけばいいというんですけれども、今この多品種の時代にそんなばかなことはできるわけがない。今ジャストインタイムということでございまして、いるものをいるだけいる時期に作って、倉庫なしに放り込むということにおいて、経費が非常に浮くということで、日本車は優秀で安くてもいいものができるということでございますけれども、このシステムは変えるわけにはいかないと思います。

これからはさらに防災に強い流通機構にしていくことは経済通商産業、名前だけはよく省は変わりますけれども、もうちょっと頭変わってくれるといいんですけれども、そういうことでやっておると思います。

この村内企業でございますけれども、私どもで各企業17社に入っているいろいろ聞きました。私は感心したことは、製造業は絶対に体質が強くなっておるということでございます。がっとなんか仕事なくてもこういうことはよくあることだ。これに耐えるようにこの時にはどうするどうする自衛策というのは製造業はできております。これは非常に頼もしいことだなということで感心いたしました。まだまだ私ども行政は甘いなと思っております。ところがサービス業というのは、このなかなか難しいものでございまして、物品販売業だと人の購買意欲がなければいけないということでございまして、それと、商圈の大きなのが飯

田にあるということでございまして、みんな行ってしまうということ。たまたま下條村は若者がとどまってくれるということでございまして、物品販売業に対してもいろいろそんなに落ちていないと思います。

それから観光業、これもまた一生懸命下條村でも観光しながらやっていくわけでございますけれども、サービス業においても販売業においても、今戦略を変えておりまして、来たら売ってやるぞでなくて、本当にお客さんを自分自身で集めてきて、そしてそのお客さんを店の中へ入れて対応しておるといような、これ当然高齢化社会の中でやるべきことなんですけれども、そうした費用もかかると思います。ケースバイケースでこれも考えてやらなければいけないということと、利子補給の問題もございました。これは今、商工会でもそれに対応してやっておるところでございましてけれども、その出た答えによって行政が一生懸命努力したけれど、こういう結果になったということになれば行政も放っておくわけにはいかないわけでございますので、ケースバイケースでやるようにしております。

ただ、困ったから何とか利子補給という時代でないことは確かでございますので、そんなことで前向きに考えておるところでございまして。

以上、抜けた部分はあるかと思っておりますけれども、10番議員に対する答弁終わります。

○副議長（宮嶋 怡正） 10番、宮嶋清伸君、再質問ありますか。

10番、宮嶋清伸君。

○10番（宮嶋 清伸） 先ほど答弁の中でも、村内の企業の状況を把握しているということでしたけれど、村内に大手の企業が入っております。そこら辺の状況について新しい展開等がありましたらお聞きしたいと思います。

○副議長（宮嶋 怡正） 伊藤村長、答弁願います。

○村長（伊藤 喜平） そのことも私もじかに聞いたわけでございますけれども、非常に今明るい予想をもっております。

今までずっとこらえてきて、そして失業助成金か、雇用調整80%出るやつあれで耐えてきたけれども、今度は逆にその裏返しで若干退職もしていただいたわけでございますけれども、その裏でもしかしたら足りなくなるんじゃないかと、大手の場合。大手の2社。1社はもうこんなに波のある会社で、もうどうしようもないくらい波があって、このと

きはものすごいいいんですけれども、とんと落ちるという会社。これはそういう体質になっております。もう1つは、そんなに落ちなんだと。もう1つは、どーんと落ちたけれども、今非常に上がり調子になる。

需要はあるんですけれども、今言ったように東北地方である一部分のパーツが間に合わない。自動車なんか3万点くらいの部品がいるわけでございますけれども。それでネックになって、作りたい、売れるんですけれども売れない。今はそのために中古車の方が新車を上回るような値段で東北地方では商売ができるそうでございますけれども、それは異常でございます、その形が入ればいつでもバックアップできるということ。そしてだんだんその形態ができてきたということで、非常に希望をもっておるということを確認いたしました。

○副議長（宮嶋 怡正） 10番、宮嶋清伸君、再質問ありますか。

議長を宮嶋議長と交代いたします。

（議長交代）

○議長（宮嶋 清伸） 議長を交代しました。